

アクリル、キャンバス 150×190 cm 2023



《観照》の中で

「一」は、郝方圓の中で長く持続してきた内的感覚である。

今回の《観照》展は、郝方圓にとって京都での初発表となる。
本展では「一人一画」という形で、《一 / ONENESS》を京都へ持ち込んだ。

作品に現れる構造、微光、流動する痕跡は、黒の基底の中で集積と拡散を繰り返している。視覚もまた、それらの関係の変化に応答するように、内部へとゆっくり入り込んでいく。

《観照》において本作が触れているのは、視覚がどのように内部で組織されていくのかという過程である。中心は静かに揺れ続け、視覚もまた、ひとつの場所へ固定されない。

微細な噴出、粒子状の痕跡、流れ続ける線は、画面全体に深く持続する振動を与えている。

郝方圓が長年向き合ってきた「合一」への思考もまた、こうした生成し続ける関係性の中で、見ることの内部へと接近している。

“一”，是郝方圆长期持续至今的一种内部感知。

这次《觀照》展，也是郝方圆首次于京都发表作品。他以“一人一画”的方式，将《一 / ONENESS》带入京都。

作品中的结构、微光与流动痕迹，在黑色基底之中持续聚集、扩散、回返。观看也随着这些关系的变化，进入内部不断显现的过程。

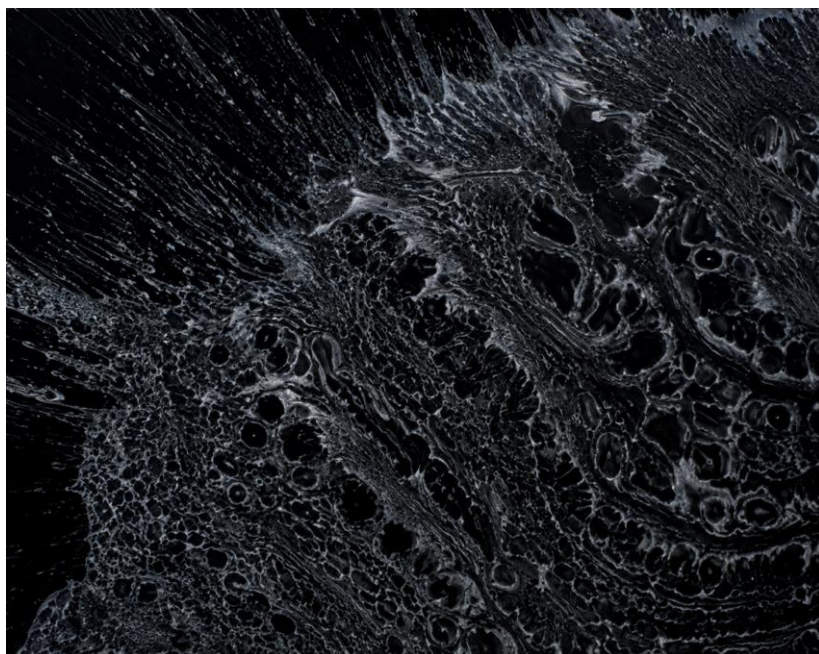
在《觀照》的语境里，这件作品所触及的，是视觉如何在内部被逐渐组织起来。中心始终保持着未完全固定的状态，结构也始终停留在生成之中。

那些细微的喷发、颗粒与流动性的线层，共同维持着一种深层而持续的震动。

郝方圆长期围绕“合一”展开的思考，也在这些不断生成的关系之中，逐渐转化为一种接近观看内部的感知经验。

テキスト | 王麗欣

Artist | 郝方圓ハオ・ファンユエン



1984年、中国・遼寧省丹東生まれ。祖籍は山東省。現在上海在住。

2005年、「一体派芸術」の理念を提唱し、「ATMAN ONE」を理念名として制作活動を続けている。

「一」や全体性、生命感覚を主題に、絵画を中心とした個人制作を展開。黒を基調とした画面に現れる微光、集積と拡散を繰り返す痕跡、内部から波及するような運動感は、郝方圓作品に特徴的な視覚構造を形成している。

近年の作品では、抽象絵画、精神性、東洋的感覚が交差しながら、黒の内部に独自の視覚領域を立ち上げている。

2016年、上海・同济大学博物館にて個展《八 / THE 8》開催。2017年、第11回フィレンツェ・ビエンナーレ（イタリア）に参加。同年、ニューヨーク国連本部「東方芸術 in New York」展に参加。

近年は、ヴェネツィア・アルセナーレ《万境共生》、済州国立芸術センター《Emergence: 東洋芸術ビエンナーレ》、上海 YOUNG 美術館《肉身之外》、グッゲンハイム・ビルバオ美術館《MEM 2024》など、国内外の展覧会へ参加している。

2026年、上海・明円美術館にて個展《歳在丙午》開催予定。

郝方圓 1984年生于辽宁丹东，祖籍山东，现居上海。2005年提出“一体派艺术”理念，并以“ATMAN ONE”为理念艺名持续展开创作。

长期围绕“一”、整体性与生命感知展开个人艺术实践。其作品中的结构、能量、流动痕迹与内部秩序，始终在不断聚集、扩散与回返之中彼此关联。黑色基底中的微光、聚散中的线层，以及由内部向外扩张的波动感，也逐渐形成了他极具辨识度的观看结构。

近年，郝方圓的创作逐渐发展出一种介于抽象绘画、精神性与东方感知之间的个人语言。

2016年于上海同济大学博物馆举办主题个展《八 / THE 8》。2017年参加第十一届意大利佛罗伦萨国际艺术双年展，并于纽约联合国总部参加《东方艺术在纽约》主题群展。

近年陆续参加威尼斯军械库《万境共生》、韩国济州国立艺术中心《涌现：东方艺术双年展》、上海 YOUNG 美术馆《肉身之外》、毕尔巴鄂古根海姆美术馆《MEM 2024》等国际展览。

2026年，将于上海明圆美术馆举办主题个展《岁在丙午》。

観照 KANSHŌ — Heart Sutra as Living Axis

般若心経と現代芸術

2026年5月26日 — 5月31日

kokoka 京都市国際交流会館

Reino-e Gallery Kyoto

www.reino-e.jp

info@reino-e.jp